

イーストスプリング インド投資マンスリー

2026年4月号

インド投資マンスリー
動画配信中！



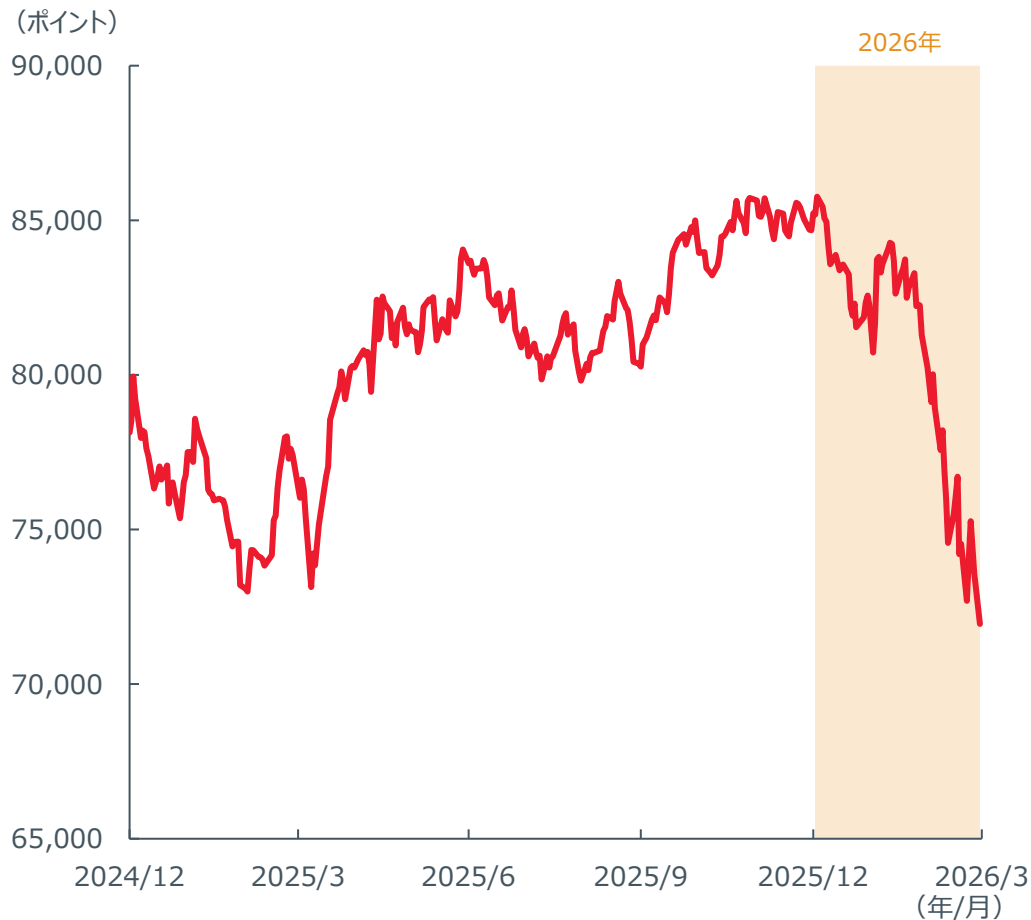
イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号
加入協会 一般社団法人資産運用業協会

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。
最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社である
ブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

株式：中東情勢の不透明感と原油高を受け大幅下落

SENSEX指数の推移 (2024年12月末～2026年3月末、日次)



2026年3月の振り返り

3月のインド株式市場（SENSEX指数）は、月間で11.5%下落しました。

中東情勢の悪化を受けて原油価格が大幅に上昇し、主要株式市場が軒並み下落する中、原油輸入国であるインドでは、インフレ圧力の高まりや貿易収支の悪化に対する懸念が強まりました。これを受け、金融引き締め懸念や企業収益への下押し圧力が意識され、投資家のリスク回避姿勢が強まりました。加えて、為替相場の安定を目的にインド準備銀行（RBI、中央銀行）が導入した、各銀行の外国為替エクスポージャーに対する新規制が金融株の重しとなりました。

セクター別では、すべてのセクターが下落する中、金融サービス、資本財・サービス、一般消費財が指数を上回る下落となりました。一方、公益事業、ヘルスケア、ITは相対的に下落が限定的でした。

投資主体別では、外国投資家は大幅な資金流出に転じた一方、国内投資家は買い越しを継続し、単月の流入額では過去最高を記録しました。

規模別指数の期間別騰落率 (2026年3月末時点)

| | 1か月間 | 3か月間 | 6か月間 |
|-------------------|--------|--------|--------|
| 大型株 (SENSEX指数) | -11.5% | -15.6% | -10.4% |
| 中型株 (BSE中型株指数) | -11.2% | -13.7% | -9.7% |
| 小型株 (BSE小型株指数) | -10.9% | -16.1% | -17.2% |

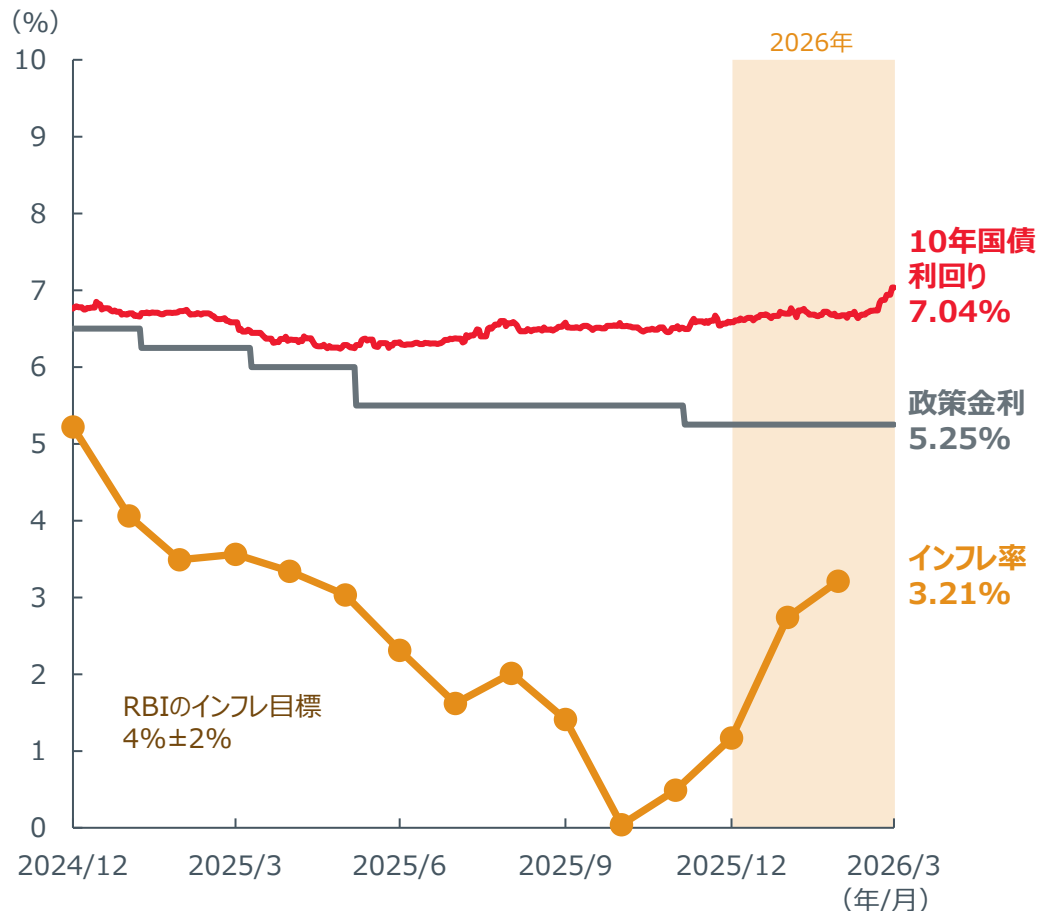
出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
※全てプライス・リターン、インドルピーベース。

● この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

債券：10年国債利回りは上昇、インフレ率も加速

政策金利*、インフレ率**、10年国債利回りの推移

(2024年12月末～2026年3月末、日次)



2026年3月の振り返り

3月のインド10年国債利回りは上昇（価格は下落）し、月末時点で7.04%となりました。

インドではガソリン・軽油の物品税引き下げ発表を受けた今後の税収減懸念や、原油価格高騰の影響を緩和するための今後の補助金負担の増加など、財政赤字拡大懸念が利回りの上昇要因となりました。加えて、インド準備銀行（RBI、中央銀行）による国債買い入れ等の対応が期間中に減少したことも、金利上昇圧力として意識されました。

3月12日公表の2月のインフレ率は、前年同月比+3.21%と1月の同+2.74%から加速しました。

債券利回りと利回り差の変化幅

| | 2026年3月末 | 2026年2月末 | 変化幅 |
|-------------|----------|----------|--------|
| 10年国債利回り | 7.04% | 6.66% | 0.37% |
| 10年社債利回り*** | 7.65% | 7.35% | 0.29% |
| 利回り差 | 0.61% | 0.69% | -0.08% |

出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

*レボ金利。**消費者物価指数（CPI）上昇率（前年同月比）、同項目のみ月次。2024年12月までは旧基準（2012=100）、2025年は新基準（2024=100）に基づく参考系列、2026年1月以降は新基準による正式系列を使用。2026年2月まで。

***10年社債利回りはBloomberg FIMMDA India Corporate Bond Curve AAA 10 Year Corporateの利回りを使用。

利回り差等については四捨五入の関係で数値間で整合しない場合があります。

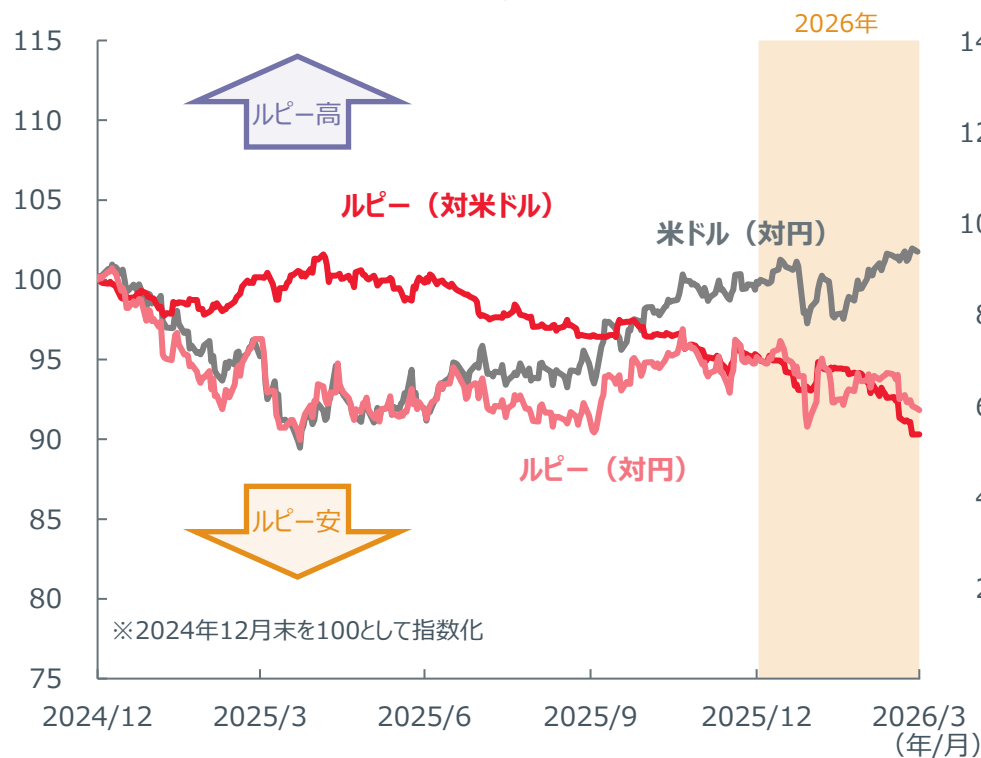
● この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

為替：ルピーは対米ドル、対円ともに下落

- 3月のルピーは、中東情勢を背景とした原油高のインド経済に対する影響への懸念から、対米ドルで4.0%、対円では1.9%下落しました。
- ルピーは対米ドル最安値圏で推移しています。一方、他の新興国通貨と比べて変動幅が小さく、中長期で見ると相対的に安定した動きとなっています。

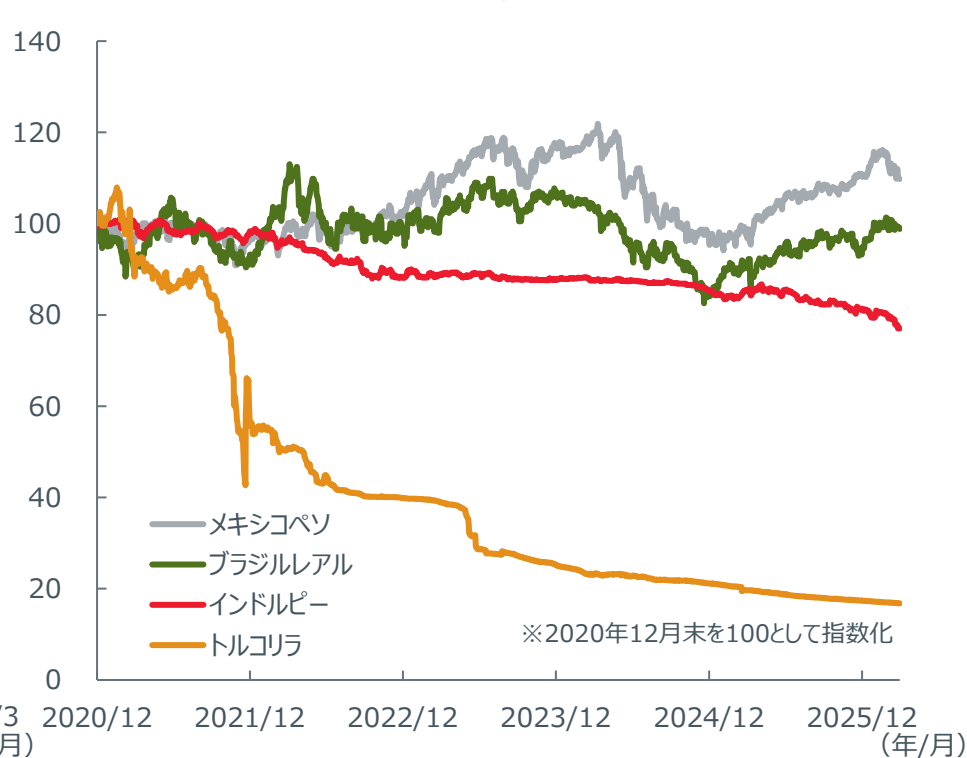
ルピー（対米ドル、対円）の推移

(2024年12月末～2026年3月末、日次)



主要新興国通貨（対米ドル）の推移

(2020年12月末～2026年3月末、日次)

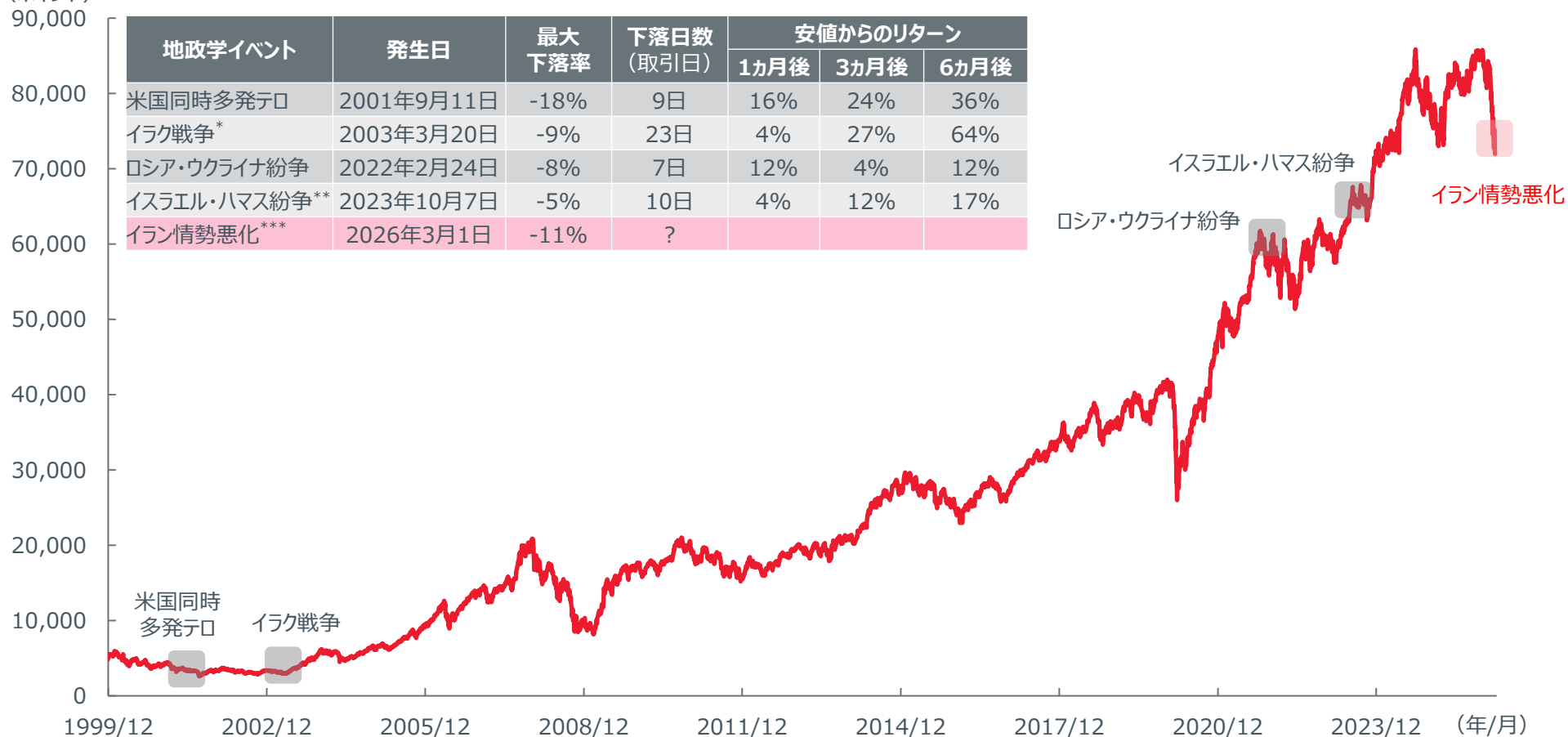


出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

地政学イベント時のインド株式のパフォーマンス

■ 2026年は、地政学リスクや米国による関税を巡る不透明感を背景に、不安定なスタートとなりました。2月上旬の米印通商合意を受けて改善期待が高まったものの、その後のイラン情勢の悪化により、市場では再び警戒感が強まっています。一方、過去の主な地政学イベント時におけるインド株式市場の推移を見ると、下落局面は限定的にとどまり、その後は回復に向かうケースが多くみられました。

(ポイント)



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。インド株式：SENSEX指数、プライス・リターン、インドルピーベース。1999年12月30日～2026年3月30日、日次。最大下落率は、イベント発生日の前営業日のSENSEX指数の終値からその後の最安値までの騰落率（最大ドロウダウン）。下落日数はイベント発生日の前営業日から最安値を付けるまでの取引日数、1か月後・3か月後・6か月後リターンは、最安値の日から各期間（休場日の場合は前営業日）までの騰落率。

*イベント発生後下落が始まった2003年3月24日の前営業日を起点として計測。**イベント発生後下落が始まった2023年10月12日の前営業日を起点として計測。***2026年3月30日時点。

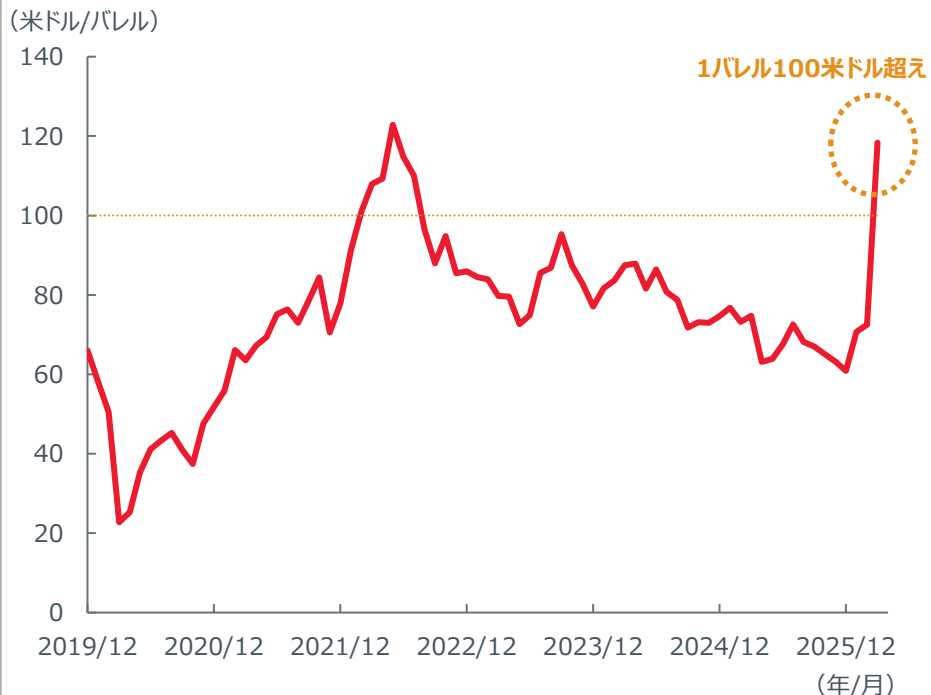
● この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

原油価格の上昇と、為替・外貨準備高への影響

- 中東情勢の悪化に伴う原油高を背景に、原油輸入国を中心に通貨安やインフレ懸念が高まっています。インドでも、原油価格の上昇が輸入代金の増加を通じて米ドル需要を押し上げ、ルピー安圧力につながるほか、燃料・物流コストを通じた物価や貿易収支への影響が意識されやすい状況です。
- こうした中、インド準備銀行（RBI、中央銀行）は、外貨準備を活用した市場対応に加え、銀行の為替ポジション制限などの手段も含め、為替市場の過度な変動を抑制する姿勢を示しています。

ブレント原油（先物）価格の推移

(2019年12月末～2026年3月末、月次)



インドルピー/米ドルの推移

(2019年12月末～2026年3月末、月次)



インドの外貨準備高の推移

(2019年12月末～2026年3月末、月次)



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

当資料に関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。
- 当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。